

食生活を考える
～子どもたちのより良い食習慣づくり～

I 主題設定の理由

本研究会では、学校教育の様々な場面で食に関する指導の実践を広げ、子どもたちがより良い食習慣を身につけ、健やかに成長していくことを目指している。そのために、学級担任と栄養教職員によるチームティーチングでの授業の進め方や教材教具の活用方法、食に関する年間指導計画に基づいた給食時間における指導方法の研究を進めることとした。

授業実践や給食の時間を活用した指導実践により、食に関する指導が計画的に進められ、子どもたちの良い食習慣づくりから、学校生活を生き生きと楽しく過ごす子どもたちを育成したいと考え、本主題を設定した。

II 研究の内容

1 授業実践

なかよし学級健康教育

授業者：山梨小学校 なかよし学級担任 中村 しげみ 教諭 福嶋 沙織 栄養教諭

題材：「なかよし学級健康隊」…「なかよし人体くん」と一緒に学ぼう…

「じょうぶな骨をつくるためには、どうしたらいい？」

内容：内蔵パーツが自由につけられる教材「人体くん」を使って、子どもたちの課題にアプローチする全5時間の健康教育を計画。研究授業では3時の「じょうぶな骨をつくるためには、どうしたらいい？」を題材に、「人体くん」を使って「自分にとって大事なことは何かを考えること」をねらいとした実践であった。

2 学習会

(1) 「学校給食の現代的課題と食教育の進め方」

講師：山梨県教育庁スポーツ健康課 高尾 順子 主幹指導主事

(2) 「つながる食育推進事業モデル校の実践」

報告：塩山南小学校 市川 智也 栄養教諭

3 給食の時間における食に関する指導案、指導資料の作成

内容：「食に関する年間指導計画」を基に給食に時間における食に関する指導案、指導資料を小学校低学年用、中学年用、高学年用と発達段階に分け作成した。

6月【じょうぶな骨】

・牛乳を飲もう(低)・よくかんで食べよう(中)・じょうぶな骨や歯をつくろう(高)

10月【バランスのよい食事】

・食品の3つの仲間(低)・バランスよく食べる(中)・主食、主菜、副菜の組み合わせ(高)

11月【日本の食文化】

・食事のあいさつ(低)・感謝して食べよう(中)・和食のよさを知ろう(高)

Ⅲ 成果と課題

1 成果

(1) 授業実践

- ・児童一人ひとりの個性，実態の把握から築き上げた授業であるため，児童にとってわかりやすく実生活に結びつく実践になっていた。この実践を通して，実態を的確につかむこと，計画的な指導，興味や関心から理解につながる教材の工夫など，実践を進める上での有効な方法について学ぶことができた。
- ・児童の関心を引く魅力的な教材の工夫や児童の実態そった内容，家庭とのつながりが盛り込まれた授業実践であり，研究テーマに迫ることができた。

(2) 学習会

- ・スポーツ健康課の指導主事による学習会では，具体的なデータや実践例の提示のもと，現在の家庭や子どもたちが抱えている食を含めた生活環境の課題や，学校における食教育の手立てなどを学ぶことができ，部会研究の目的を明確化する機会となった。
- ・つながる食育推進授業モデル校の実践報告では，身近に食育アドバイザーが多くいることや，家庭や地域，行政とつながることで様々な実践が広がっていくことを学べる有意義な学習会であった。
- ・食えることは健康に生きることの基本である。そのために，学校，地域，家庭など生活のつながりを含め，子どもたちがより良い食習慣を身につけていくことの大切さについて，今年度の研究を通して，改めて確認することができた。

(3) 給食の時間における食に関する指導案，指導資料の作成

- ・授業時間が限られている中，食教育を進めて行くには，毎日の給食時間がより大切になってくる。そこで，誰もがすぐに指導に使えることを考えた指導案と指導資料の作成に取り組めたのは，食教育の広がりにつながるものになった。部員全員で分担し，主体的に活動し作成できたことが良かった。

2 課題

- ・今年度は，指導案，指導資料の作成を行ったが，今後は指導案と資料を活かした実践をしていく必要がある。実践を通してより現場に合った指導内容，指導方法についても今後研究を深められると良い。
- ・授業実践は，これまで教諭と栄養教職員のチームティーチングを主として行ってきたが，栄養教職員は兼務が多く，連携が難しくなる可能性が考えられる。教諭と栄養教職員のチームティーチングにこだわらず，つながる食育推進事業の実践にあったような食育アドバイザーや地域，行政のつながりなども含めて，教諭が栄養教職員がそれぞれの立場で食育の視点をもった授業実践を今後は考えていく必要がある。
- ・指導案や指導資料作成と授業実践，さらに食育推進校の学習会などを続け，研究を深めていくと良い。
- ・授業実践や学習会に加えて，模擬授業など，部員の構成に合わせた研究内容を考えていく必要がある。
(部長 小林智子)